

誰もが輝ける職場を目指して

～当事者雇用と職員の意識改革～

社会福祉法人 青谷学園

森村 章仁



法人概要

- ・法 人 名 社会福祉法人 青谷学園
- ・設 立 1982年3月18日
- ・所 在 地 京都府城陽市中芦原14番地
- ・実施事業 障害者支援施設 青谷学園(定員70名)
 障害者支援施設 DO(定員30名)
 青谷学園特定相談支援事業所
- ・事業内容 知的障害者の入所施設(生活介護/施設入所支援/短期入所)
- ・職 員 数 103名



1. 実践の背景

- ・社会的な障害者雇用への関心が高まり、法定雇用率も引き上げ
- ・当法人は既に法定雇用率(3.70%)を達成し、積極的に推進
- ・「京都はあとふる企業認証」申請済み、「もにす認定」申請予定
- ・「障害者支援施設での雇用は難しい」という固定概念からの転換
- ・当法人の障害者雇用方針
「多様な個性と能力を尊重し、誰もが活躍できる環境を整備します。合理的配慮を積極的に提供し、共に成長し貢献できる職場を目指します」

個人的な動機と実践の始まり

- ・知的障害を持つ友人の子の就労相談がきっかけ
- ・上司の賛同を得て、生活支援員(主に清掃業務)として採用
- ・「簡単に辞めさせない」という強い決意で実践を開始

知的障害者の初雇用

- ・身体障害者雇用から、初めて知的障害者雇用へ挑戦
- ・新たな挑戦は学びと課題をもたらした
- ・職員向けに障害特性理解のための説明会や勉強会を重ね、意識改革と協力体制を構築
- ・知的障害者が安心して能力を発揮し、成長できる環境を整備
- ・今後は支援学校の生徒の就労先としても積極的に受け入れ予定



2. 実践内容の概要

- ① 障害者雇用推進者の役割
- ② 全職員対象の障害者雇用理解促進研修
- ③ 専任の指導役配置による手厚いサポート体制
- ④ 実習生の受け入れと指導役への抜擢
- ⑤ 得意分野を活かした専門研修への参加
- ⑥ 法人主催事例発表会での成果発表



① 障害者雇用推進者の役割

- ・障害者雇用推進者が中心となり、知的障害者の職員への配慮を実施
- ・2024年度「障害者職業生活相談員」資格取得で理解を深化
- ・職員会議等で職員にも周知・共有



(障害者雇用推進者による施設内研修)

② 全職員対象の障害者雇用理解促進研修

- ・法人全体での障害者雇用推進には職員の理解が不可欠
- ・全職員対象の障害者雇用研修を定期的に実施
- ・障害特性理解、適切な支援方法、仲間意識の醸成を促進



(障害者雇用オンライン研修)

③ 専任の指導役配置による手厚いサポート体制

- ・毎日、正規職員が専任指導役として付き添い、手厚くサポート
- ・業務指導に加え、体調変化や困りごとにもきめ細やかに対応
- ・清掃箇所のチェックと修正を共に行い、社会人マナーも丁寧に指導
- ・安心して長く働く環境を整備



④ 実習生の受け入れと指導役への抜擢

- ・近隣の支援学校から定期的に実習生を受け入れ、当該職員を実習生の指導役に抜擢
- ・「教える」経験を通じて、新たな意欲と能力を引き出す
- ・当該職員の成長と実習生にとっても貴重な学びの機会に

◆城陽支援学校より職場体験に来られました

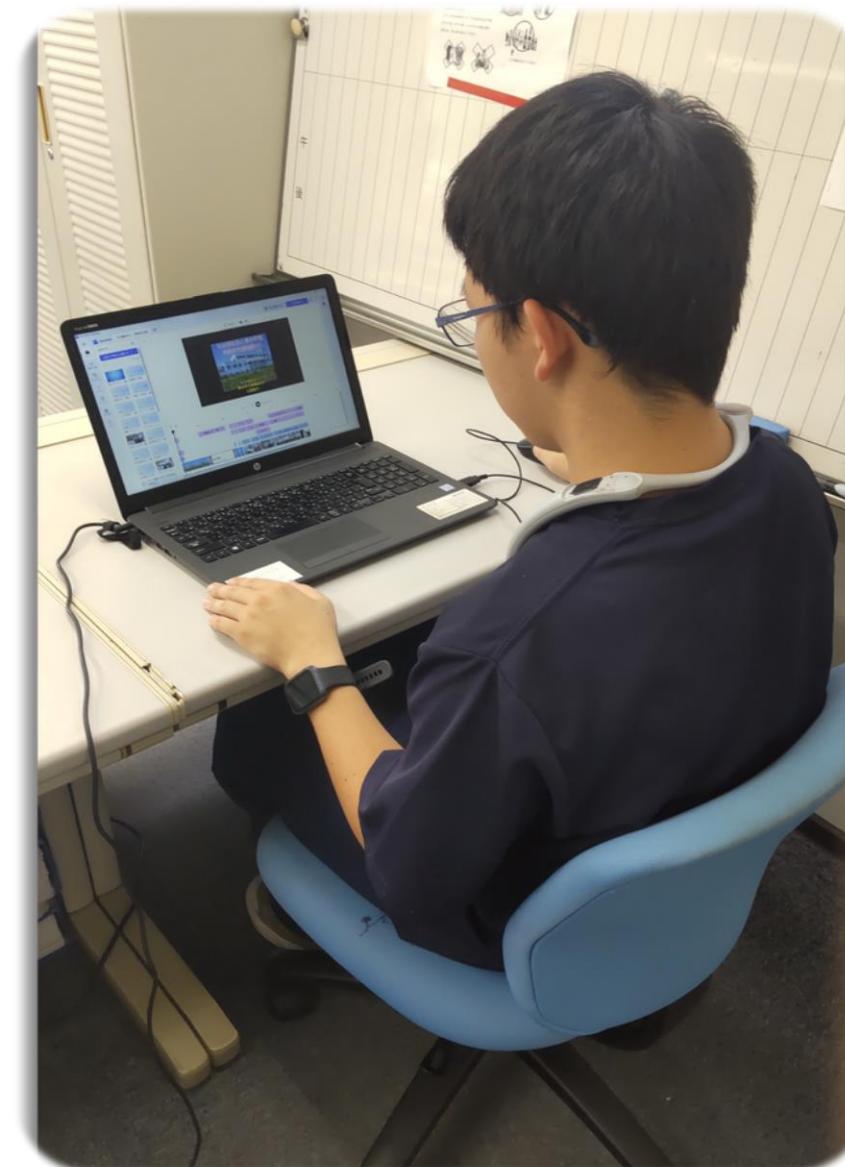
2月26日（水）、城陽支援学校高等部の学生5名が職場体験でビルクリーニングに来られました。学生は担当の先生の助言を受けながら、館外の窓清掃をとても丁寧に行ってきました。支援員（掃除担当）も学生への助言を行いながら、共に清掃業務を行いました。

今後も社会福祉法人として近隣の支援学校とは一層の協力関係を築いていきます。



⑤ 得意分野を活かした専門研修への参加

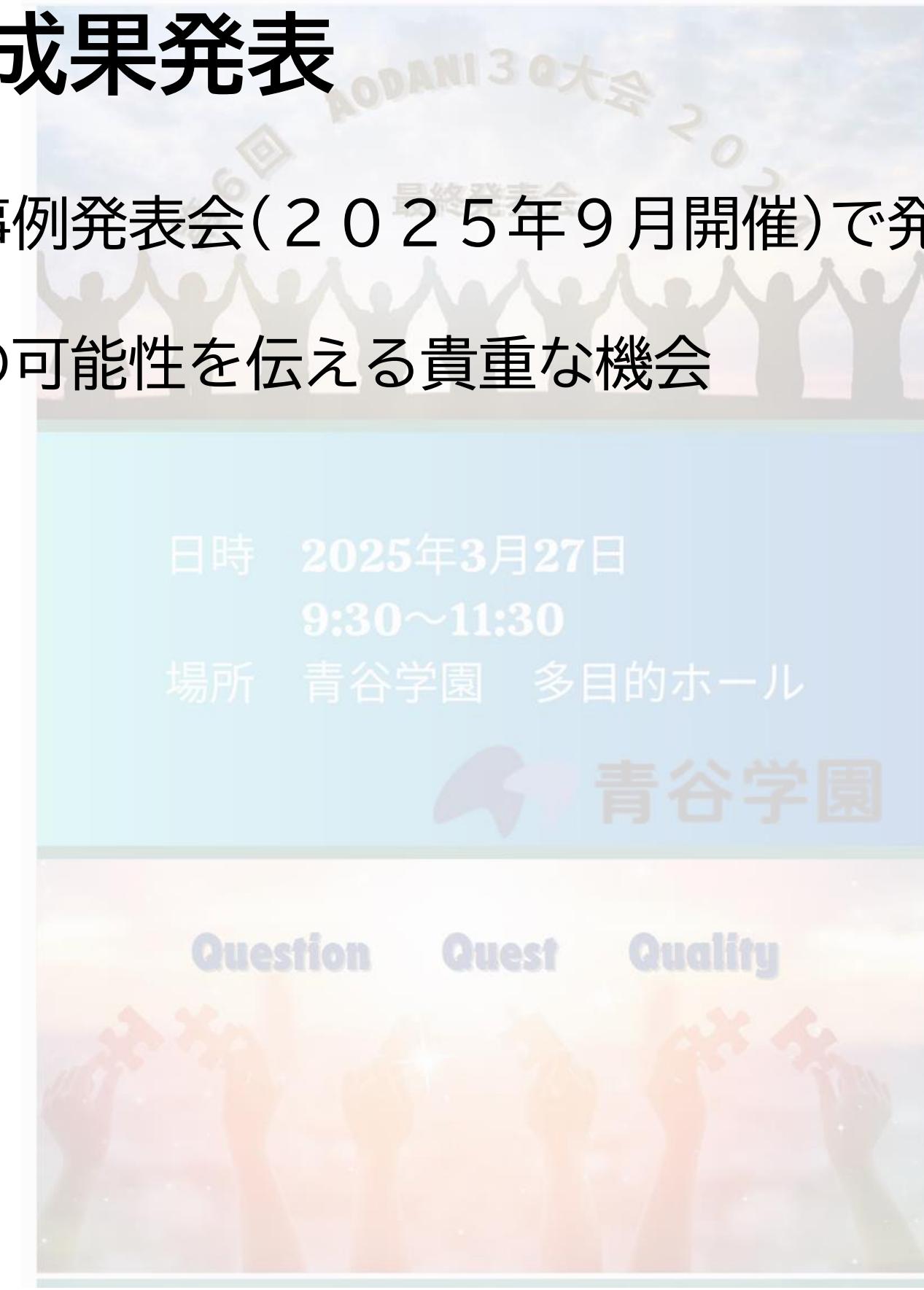
- ・デジタル分野への高い関心と特性を活かし外部専門研修に参加
- ・業務スキル習得に加え、可能性を広げ、自信を深める重要なステップ





⑥ 法人主催事例発表会での成果発表

- ・研修で得た知識・経験を法人主催の事例発表会(2025年9月開催)で発表予定
- ・当該職員の成長実感と、障害者雇用の可能性を伝える貴重な機会



3. 実践による効果、成果

- ① 当該職員の成長と職場の安定
- ② スケジュール管理能力の向上と自律的な行動
- ③ イレギュラー業務への柔軟な対応
- ④ コミュニケーション能力の飛躍的向上
- ⑤ 放送業務における才能開花と自信の獲得
- ⑥ DX推進と世代間交流の促進





① 当該職員の成長と職場の安定

- ・職員のスキルアップ

- ・体調不良による欠勤が著しく減少、安定勤務へ
- ・自身の役割と居場所を確立
- ・体調管理と責任感の向上に直結

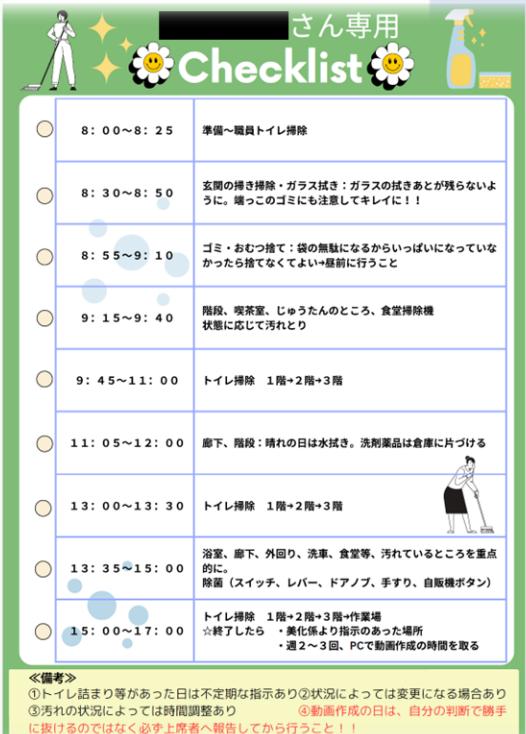


② スケジュール管理能力の向上と自律的な行動

- 「人を管理する能力」が身に付く

- スケジュール表携帯で時間意識が向上

- 社用携帯での業務確認習慣で、確実な作業遂行が可能に。業務の自律的管理能力が大きく向上



(当該職員用チェックリスト)

G5	A	B	C	D	E	F
1	日付	曜日	本人の重点項目	本人の感想	指導員	指導員からのアドバイス
2025/0/0	記入例	トイレ掃除をしっかり行う	トイレ掃除を重点的に、綺麗にできた。	青谷太郎		便座下の床の拭き取りが不十分だったので、次回は気を付けてください。
2025/08/01	金曜日					
2025/08/02	土曜日	公休日				
2025/08/03	日曜日	公休日				
2025/08/04	月曜日	年休				
2025/08/05	火曜日	年休				
2025/08/06	水曜日					
2025/08/07	木曜日					
2025/08/08	金曜日					
2025/08/09	土曜日	公休日				
2025/08/10	日曜日	公休日				
2025/08/11	月曜日	公休日				
2025/08/12	火曜日					
2025/08/13	水曜日					
2025/08/14	木曜日					
2025/08/15	金曜日					
2025/08/16	土曜日	公休日				
2025/08/17	日曜日	公休日				
2025/08/18	月曜日					
2025/08/19	火曜日					
2025/08/20	水曜日					
2025/08/21	木曜日					
2025/08/22	金曜日					
2025/08/23	土曜日	公休日				
2025/08/24	日曜日	公休日				
2025/08/25	月曜日					
2025/08/26	火曜日					
2025/08/27	水曜日					

(専任指導役用業務日誌)

③ イレギュラー業務への柔軟な対応

- ・快諾してくれるようになったことで、任せられる安心感

- ・当初の業務範囲限定意識から変化に順応する力が育成
- ・組織の一員としての適応力が向上



④ コミュニケーション能力の飛躍的向上

- ・信頼関係の構築

- ・対人マナー指導により、相手の目を見て話せるようになった
- ・日替わりチェック担当制度で対話機会を創出
- ・コミュニケーションの幅が拡大



⑤ 放送業務における才能開花と自信の獲得

- ・「褒めて育てる」能力が身に付く
- ・対話が苦手だったが、放送業務で驚くべき才能を発揮
- ・饒舌な放送が絶賛され、大きな自信を獲得
- ・得意な放送で、自己肯定感が高まる



⑥ DX推進と世代間交流の促進

- ・法人のDX推進に貢献
- ・デジタル機器操作が苦手な高年齢職員に、得意な当該職員が「教える側」として活躍
- ・職員間の新たな交流と協力関係が生まれ、予想以上の相乗効果





4. 苦労した事項・課題

- ・ **不安や戸惑い**

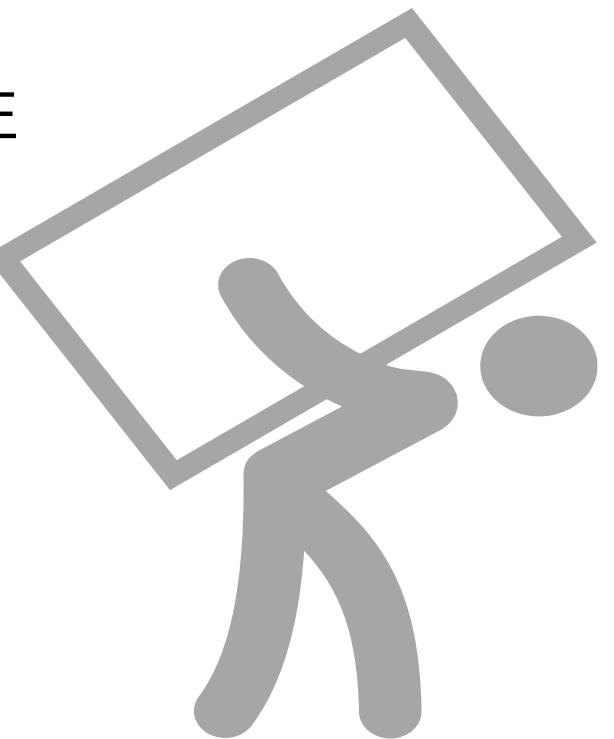
知的障害のある職員を採用し、仲間として接することの難しさ

- ・ **対人関係の構築**

特定の職員への業務拒否や職場内での進行妨害など。コミュニケーションの苦手さや環境適応困難が原因

- ・ **精神的、身体的負担**

集中力、記憶力の散漫による指導の繰り返しで職員が疲弊。ストレス軽減サポート体制の必要性



今後の展望とまとめ

- ・新しい仲間との協働で、**職員も大きく成長**
- ・本実践の経験と学びは当法人の大きな財産
- ・当事者との共生で培われた理解は、**今後の利用者支援の質を高める**
- ・当事者の活躍はご利用者様の希望
- ・今後も当事者と職員が共に成長し、**誰もが輝ける職場を目指す**

DEI宣言

十人十色だからこそ生まれる発想と、周りの人を思いやる心を大切に、誰もが働きやすい職場づくりを目指すため、ここにD E I (ダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公平性)、インクルージョン(包括性))を推進することを宣言します。

2023年4月1日

「D Oで働くことをどう思っているのか？良かった点など」

「自分のペースで仕事をさせてもらっているので、体調が良くなった。」

「以前の職場は、台風のなかでも熱が出ていても「仕事しろ、来い！」と言われていた。」

「過敏性腸症候群の診断がでているが、緊張や不安が少しづつ改善され、最近はほとんど休まなくなった。」

「仕事で褒められることが増えて嬉しい」

「自分の仕事に慣れて、今まで出来なかったことができるようになった。」

「自分が褒められる回数が増えて嬉しい。」

「得意なことを活かせる職場」

「デジタルが得意。」

「以前、動画制作の研修に参加させてもらった。」

「希望したアプリを使わせてもらい、D Oの紹介動画を作成中。」

「D Oに貢献したい。」

「家族の助けになりたい」

「2人の弟の大学費用など、自分の収入で手助けしたい。」

「5月からの時間延長で、家族は最初大丈夫か不安だったが今は喜んでくれている。」

「これからもD Oで長く働き続けたい」